

箕作元八 （みまのり） 西洋史家、文學博士。文久二年五月二十九日江戸生れ、大正八年八月九日歿（八十二歳）。號南亭。箕作秋坪の四男。

父の三又學舎に學び、平沼叔郎、阪谷芳郎と共に優秀な少年の稱があった。東京英詩學校を経て、明治十八年東京大學理學部卒。ドイツに留學し、歸國後第一高等中學校教授となり、『西洋史綱』（峰岸幸造共著、明治二十一年刊）を出版、部數萬に達したといふ。二十一年再びドイツに渡り、ベルリン大學に學ぶ。同地で坪井正五郎、吳秀三、長岡半太郎、寛克彦等と交遊。翌年フランスに移り、パリ大學でオーラルの講義を受け、後年の代表的著作『佛蘭西大革命史』（全一冊）（大正八、九年刊）の素地を得た。歸朝後東京帝國大學教授。

他の『歴史叢話』（木村定次郎編、明治四十年十月十七日博文館「學藝叢書」）、『史眼に映ずる世界大戰』（大正七年八月十八日博文館）、

『第十八世紀佛蘭西文化史』
『社會主義運動史』（大正十一年二月二十八日富山房）、『西

洋海軍史』（大正十一年五月五日富山房）、『箕作元八・滯歐「旅梅日記」』（井手文子・柴田三千雄編、昭和五十九年十一月二十六日東

京大學出版会）等著書多數。

